

NEWS CLIP & AV MATERIAL

◎ ニュースクリップ&映像教材



■第57回教育映像祭「夏休み子ども映画フェア—わくわく・ドキドキ！夏休みの思い出を！—」

平成22年8月19日（木）、東京・文京区シビックホールにおいて、日本視聴覚教育協会・東京都小学校視聴覚教育研究会主催による映画会を開催する。上映作品は、「草原の子テングリ」（桜映画社）、「いのりの手」「手紙」（学研教育出版）、「源吉じいさんと子ぎつね」「金色のクジラ」（東映）の5作品。

参加希望者は、往復ハガキにて申し込む（本誌14頁参照）。

NEWS CLIP

協会情報

■ 2010年教育映像祭「優秀映像教材選奨」に85作品が参加

（財）日本視聴覚教育協会では、毎年、教育映画、ビデオ、DVDの映像教材の製作振興と利用の向上進展を図る目的で、標記選奨を開催している。

参加作品数は次の通り。（ ）内は前年。

〈映画の部〉 出品なし

〈ビデオの部〉 8社・28作品

学校教育部門 12作品（16）

小学校（幼稚園含）向け 7作品（10）

中学校向け 4作品（5）

高等学校向け 1作品（1）

社会教育部門 8作品（6）

家庭生活 2作品（1）

市民生活 6作品（5）

職能教育部門 6作品（5）

動画部門 2作品（2）

〈DVDの部〉 16社・57作品

学校教育部門 28作品（25）

小学校向け 17作品（12）

中学校向け	5作品（8）
高等学校向け	6作品（5）
社会教育部門	12作品（20）
家庭生活	2作品（6）
市民生活	10作品（14）
職能教育部門	11作品（14）
動画部門	1作品（1）
教養部門	5作品（12）

なお、本コンクールの表彰式は平成22年9月17日（金）、東海大学校友会館（千代田区霞ヶ関3-2-5）において行われる。

AV情報

■ 文化庁「平成22年度著作権セミナー」開催

文化庁では、著作権に関する基礎的な理解を深め、もって著作権制度の知識や意識の向上を図ることを目的に全国10カ所にて、標記セミナーを開催する。〈期日・会場〉 詳細は11頁を参照のこと。

〈対象〉 一般、図書館職員、教職員、行政職員、その他（企業、知的財産担当者、クリエイター）。参加申込については、ホームページを参照のこと。

▶ブックレビュー



「デジタル教材で理科が変わる―新学習指導要領完全対応・授業づくり事例集―」

中川一史・村井万寿夫編著
ぎょうせい発行
2010年3月発行 169頁
2,190円(税別)

「理科離れ」の問題がクローズアップされている中で、理科の授業における「観察・実験」の重要性が改めて強調されている。しかし、学習の中には、「台風と天気の変化」や「体のつくりと働き」のように、観察・観察が難しく、観察が容易でない学習がある。そのような時に役に立つのがデジタル教材である。本書では、そのデジタル教材の効果的な活用方法が、「実践編」として小学校3年生～高等学校3年生まで50例も示されている。しかも、各事例は、実際のデジタル

教材の画像とデジタル教材を活用する意図が明確に書かれ、使いやすい見開き2ページに収められている。ここで主に紹介されるデジタル教材は、JST(科学技術振興機構)の「理科ネットワーク」の教材でWebサイト上から誰でも無料で簡単に質の高い教材の活用ができる。またこのデジタル教材は、「教材編」としてフルカラーで巻末に紹介されているので、ここを見るだけでも活用のイメージがわく。この他に「理論編」として、デジタル教材やICT活用の視点が記載されている。ここには、新学習指導要領を意識した、課題解決力を高めたり、言語活動の充実を図ったりする理科授業が示されており興味深い。また、実験・観察が大切な理科で、なぜデジタル教材を活用するのか、その意図を明確に23に細分化して示している点にも注目したい。

本書は、理科があまり得意でない先生はもちろん、最近増えつつあるICTが得意な若い先生方にもお勧めの、誰でもすぐに効果的なICT活用の授業実践ができる一冊である。

(千葉県船橋市立若松小学校教頭 秋元大輔)

http://www.bunka.go.jp/chosakuken/seminar/22_chosaku_seminar_keikaku.html
〈問い合わせ先〉文化庁長官官房著作権課
TEL 03-5253-4111 (内線3169)

■ 2010年の夏休み こども映画館☆

東京国立近代美術館フィルムセンターでは、映画のおもしろさを発見させる標記の教育プログラムを開催する。

〈日時〉平成22年8月6日(金)・7日(土)、13日(金)・14日(土)、13:30~15:30(13:00開場)

〈場所〉東京国立近代美術館フィルムセンター小ホール(東京都中央区京橋3-7-6)

〈内容〉さまざまな映画作品や映画に関連する展示を学芸スタッフの解説とともに鑑賞する。各回

のテーマは「映画のリズム♪を感じよう！」(8/6)「活弁と音楽の世界 無声映画のおどろきを体験しよう！」(8/7※)「活弁と音楽の世界 不思議な映画」(8/13※)「たのしい★手作り映画」(8/14)。※には、無声映画に活弁や音楽の生伴奏付き上映会あり。

〈応募方法〉メール(パソコンより送信)または往復はがきにて、〈問い合わせ先〉まで申し込みのこと。締切は、実施日の1週間前(必着)。各回定員150名に達し次第締切。詳細は、下記を参照のこと。<http://www.momat.go.jp/kids/KIDS-MOMAT2010/index.html>

〈問い合わせ先〉〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6フィルムセンターこども映画館係
TEL 03-5777-8600(ハローダイヤル)
MAIL kids-cinema2010@momat.go.jp

AV MATERIAL

文部科学省選定作品

■ 5月選定 紙紙しばい/ビデオ/DVD
「たけのこ ほりほり」紙8枚〈幼稚園/幼児・

教養〉(株)童心社
「みつばちのはにーちゃん」紙12枚〈幼稚園・小学校(低学年)/幼児・教養〉(株)童心社
「人権啓発アニメーション『ボクとガク』—あの夏のものごたがり—」ビデオ42分〈小学校(高学年)・

特活／少年・青年・成人、地域社会生活（人権）
東映（株）

「スポーツと汗の季節の健康ふしぎ館」D 29分〈中学校・保健体育／少年・健康・スポーツ（健康・体力づくり）〉NHKエンタープライズ

「インターネットの向こう側」D 36分〈中学校、道徳・特活、高校・特活／青年・成人、地域社会生活（人権）〉（財）人権教育啓発推進センター

「最新版・中学生の進路学習シリーズ（1年生編）自分を知って将来を考えよう！」「同シリーズ（2年生編）働く体験で社会を知ろう！」「同シリーズ（3年生編）夢に向かってはばたこう！」各E 23分〈中学校・総合的な学習の時間、特活〉（株）映学社

「安全でおいしい水を安定して供給する」D 35分〈高校・工業／青年・成人、地域社会生活（生活環境改善）〉東洋企業（有）

特選「水産加工 魚肉ねり製品」D 27分〈高校・水産〉（株）CNインターボイス

「たうえにいったよ」E 12枚〈幼児・教養〉（株）童心社

「女性の人権シリーズ『夫の虐待を許さない！—夫婦のモラル・ハラスメント—』『同『職場いじめは許さない！—職場のモラル・ハラスメント—』』各E 19分「同『暴力は愛じゃない！—男女交際のハラスメント—』」E 21分〈青年・成人、地域社会生活（人権）〉（有）フォア・ザ・ワン・プロジェクト

「介護福祉士の仕事 第1巻 特別養護老人ホーム」D 11分「同 第2巻 介護老人保健施設」D 11分「同 第3巻 障害福祉サービス」D 10分「同 第4巻 訪問介護サービス（生活援助編）」D 11分「同 第5巻 デイサービス」D 11分「同 第6巻 グループホーム」D 10分「同 第7巻 小規模多機能型居宅介護サービス」D 11分〈青年・成人、職業の知識技術（医療・福祉）〉東京シネ・ビデオ（株）

放送番組

中学生日記

（土）19:15～19:45／NHK教育

翌週（土）13:00～13:30／再放送 NHK教育
中部7県は翌週（土）10:05～10:35／再放送 NHK総合
※都合により番組内容が変更となる場合があります。

■3日 行列のできる!?相談室(1)
7月3日の憂鬱（前編）

■10日 行列のできる!?相談室(2)
7月3日の憂鬱（後編）

■17日 行列のできる!?相談室(3)
万引きカウンセリング

■24日 内容未定

■31日 夏のアンコール（放送番組は未定）

発見！人間力

※放送曜日・時間は地域によって異なります。
〈放送についての問い合わせ〉
（財）民間放送教育協会 TEL03-6406-2171

■95回 3日「干物でファイト！まちおこし応援隊」（メーテレ）

■96回 17日「“人生の凄腕”女弁護士」（北海道放送）

■97回 24日「秘湯よ よみがえれ—震災からの復活を誓って—」（東北放送）

■98回 31日「これがオラだのまちづくり」（山形放送）

エル・ネット

各機関で行われているさまざまな取り組みを視聴できます。今月の主な新着コンテンツは、下記の通り（<http://www.ernet.go.jp>）。

主なコンテンツの紹介

〈2ch 文部科学省から〉

「学校教育の情報化に関する懇談会」

文部科学省では、今後の学校教育（初等中等教育段階）の情報化に関する総合的な推進方策について有識者等との意見交換等を行うため、平成22年4月22日（木）より「学校教育の情報化に関する懇談会」を開催している。その模様をオンデマンド配信。

（1）授業におけるICTの活用について（デジタル教科書・教材、情報端末・デジタル機器、学校・教員等の在り方を含む）、（2）ICTを活用した校務支援について、（3）ICTの活用に関する教員へのサポート等について等。